

本埜中学校の学校適正配置シミュレーション(案)について

1 本埜中学校の現状について

① 所在地	印西市笠神 250
② 開校年	昭和 22 年
③ 生徒数の推移	令和元年度 (5 月 1 日現在) : 46 名 → 令和 7 年度 (推計) : 42 名
④ 学級数の推移	令和元年度 (5 月 1 日現在) : 4 学級 → 令和 7 年度 (推計) : 3 学級
⑤ 教室数	7 教室
⑥ 学校教育目標	豊かな心を持ち、一人一人の生徒が光りかがやく学校
⑦ 学区外就学の状況	令和元年度 (5 月 1 日現在) : 13 名 学区外就学先 : 滝野中学校、小林中学校、印旛中学校
⑧ 学校の特色	<p>○より多くの教科で、個別指導などを取り入れ、きめ細やかな指導を展開し、学力の向上を目指している。</p> <p>○キャリア教育の充実(体験)を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 年 : 地域の産業を知る・職業調べ 2 年 : 印西市生き生き体験(職場体験)、 夢の懸け橋プロジェクト(実際に働いている人から話をうかがう) 3 年 : 主体的な進路選択を目指して高校調べ・高校訪問・進路決定) <p>○よき伝統(あいさつ・歌声・清掃)が日々の活動で実践され、生徒一人一人の誇りとなっている。</p> <p>○部活動を通して健やかな体と豊かな心の育成をしている。</p>
⑨ 部活動の状況(令和元年度)	○陸上(男女) ○野球 ○ソフトテニス(女子) ○吹奏楽 ○水泳

※令和元年度の生徒数及び学級数は特別支援学級を含む。(2 ページ目の令和元年度の生徒数及び学級数も同様)

2 隣接校の現状について

	滝野中学校	小林中学校	印旛中学校
① 所在地	印西市滝野 5-2	印西市小林大門下 1-4-1	印西市舞姫 2-1-1
② 開校年	平成 9 年	平成 2 年	昭和 50 年
③ 生徒数の推移	令和元年度(5月1日現在):264名 →令和7年度(推計):404名	令和元年度(5月1日現在):140名 →令和7年度(推計):186名	令和元年度(5月1日現在):368名 →令和7年度(推計):313名
④ 学級数の推移	令和元年度(5月1日現在):10学級 →令和7年度(推計):13学級	令和元年度(5月1日現在):8学級 →令和7年度(推計):6学級	令和元年度(5月1日現在):14学級 →令和7年度(推計):9学級
⑤ 教室数	11 教室	15 教室	19 教室
⑥ 学校教育目標	次代を担う、豊かな心とたくましく生きる力を持った生徒を育成する	自ら学び 心豊かでたくましく生きる生徒の育成 【校訓】一生懸命はかっこいい	自ら学ぶ意欲と豊かな心を育み、主体的に行動できる生徒の育成
⑦ 学校の特色	○学校が位置する住宅地周辺は豊かな自然環境があり、里山学習林など教育環境として恵まれている。学区はほぼ開発された住宅地の範囲なので生徒の通学距離は短い。学区には、まだ宅地開発用地が若干残っており、住宅の建設が続いている。 ○保護者の学校への関心や協力・支援体制は高く、PTA 活動も自立して活発である。	○生徒数は平成 11 年度をピークに減少期に入っているが、施設設備は充実しており、落ち着いた学校生活を過ごしている。また、地域住民及び保護者の学校への関心は高く、大変協力的である。 ○特色ある教育活動として、「学習シラバスの作成と活用」、「地域と連携した防災教育」、「JRC（青少年赤十字）活動」に取り組んでいる。	○生徒は、地域の期待と温かい愛情に支えられ、落ち着いた中学校生活を送っている。 ○生徒の 9 割以上が部活動に参加し、どの部活も県大会出場やコンクール・作品展等を目指して、日々努力を重ねている。 ○学校生活では生徒の主体的な行動を尊重し、生徒の活動を生かした学校づくりを進めている。
⑧ 部活動の状況（令和元年度）	○陸上（男女）○野球○バスケ（男女） ○バドミントン（男女）○剣道（男女） ○ソフトテニス（男女）○美術○吹奏楽	○陸上（男女）○バレー（女子） ○バドミントン（男女）○剣道（男女） ○硬式テニス（男女）○美術○吹奏楽	○陸上(男女)○野球○サッカー○バスケ(男女) ○バレー（男女）○卓球（男女） ○柔道（男女）○剣道（男女）○ソフトテニス（女子）○美術○吹奏楽○科学

3 本柵中学校の学校適正配置シミュレーション（案）について

(1) 現行の本柵中学校の学校適正配置シミュレーションについて

統合先は滝野中学校とし、本柵第一小学校区は滝野中学校区へ、本柵第二小学校区は小林中学校区への再編を進めることとなっている。

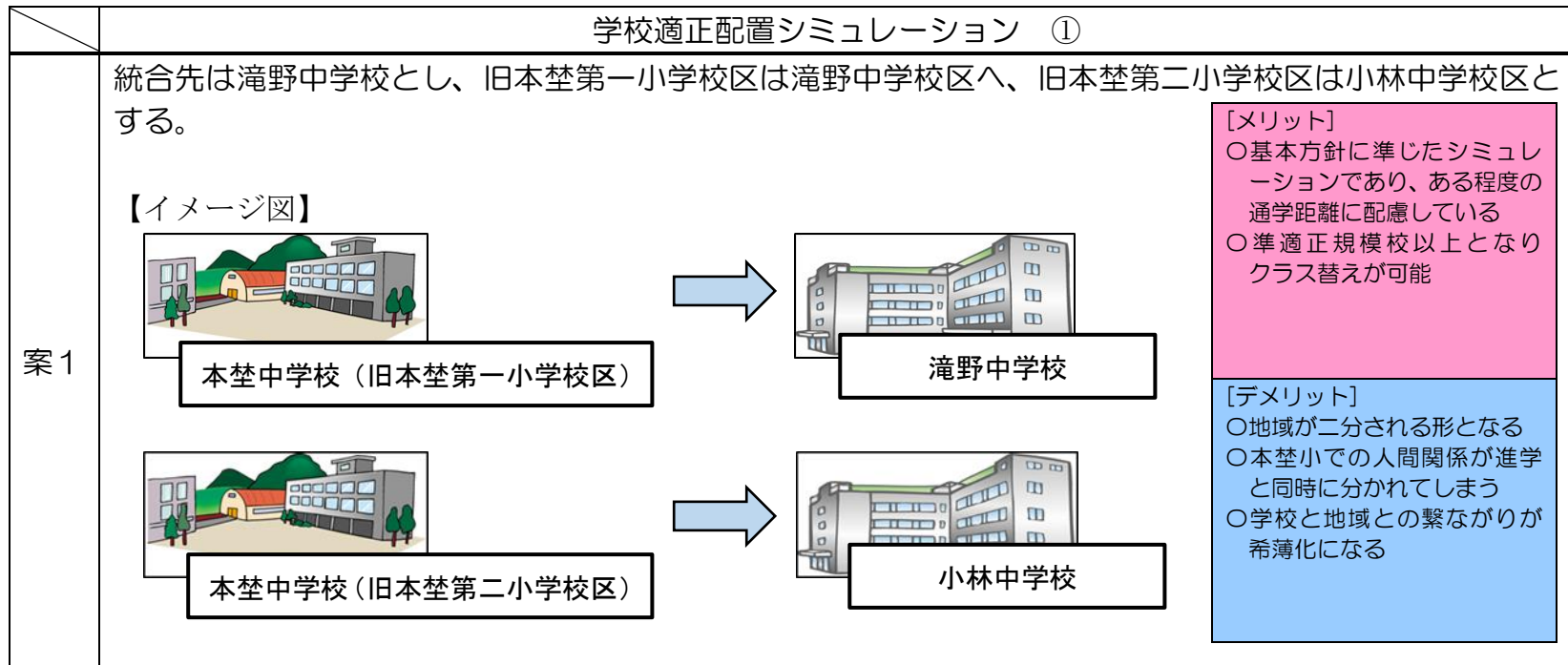
(2) 本柵中学校の学校適正配置シミュレーションの見直しについて

ア 見直しの理由

本柵第一小学校と本柵第二小学校が統合し、本柵小学校が開校したことにより、現行の本柵中学校の学校適正配置シミュレーションでは対応できなくなったため。

イ 学校適正配置シミュレーション（案）

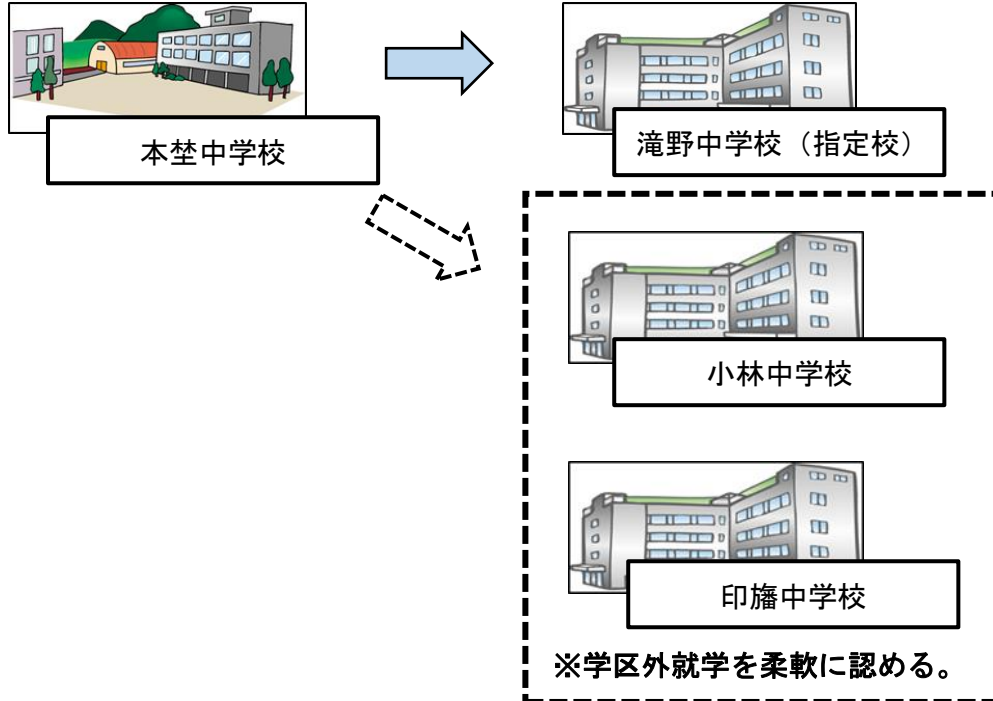
注) [メリット]…期待等/[デメリット]…課題等



学校適正配置シミュレーション ②

統合先は滝野中学校とし、隣接校である小林中学校及び印旛中学校と連携して通学区域制度の弾力的な運用を行い、小林中学校と印旛中学校への学区外就学を柔軟に認める。

【イメージ図】



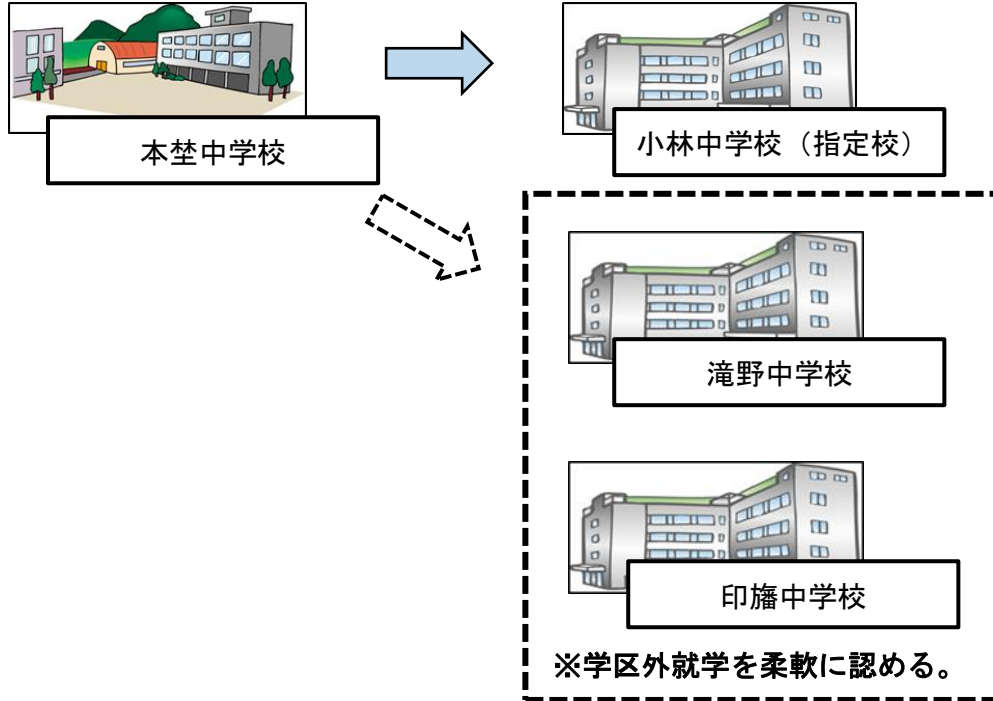
案2

- [メリット]
- 本埜中の歴史と伝統は指定校の滝野中が継承する
 - 統合先を旧本埜村区域内の中学校とすることで地域のまとまりが期待できる
 - 指定校又は学区外就学でも準適正規模校以上となりクラス替えが可能
 - 本埜小在学者全員で同じ中学校に進学できる
 - 通学距離が遠くなる地域についてはより近い中学校を選択できる
- [デメリット]
- 学区外就学を柔軟に認めることにより、本埜小での人間関係が進学と同時に分かれてしまう
 - 学区外就学の場合、地区別活動時などにおける疎外感(児童・保護者ともに)
 - 学校と地域との繋がりが希薄化になる

学校適正配置シミュレーション ③

統合先は小林中学校とし、隣接校である滝野中学校及び印旛中学校と連携して通学区域制度の弾力的な運用を行い、滝野中学校と印旛中学校への学区外就学を柔軟に認める。

【イメージ図】



案3

- [メリット]
- 本埜中の歴史と伝統は指定校の小林中が継承する
 - 指定校又は学区外就学でも準適正規模校以上となりクラス替えが可能
 - 本埜小在学者全員で同じ中学校に進学できる
 - 通学距離が遠くなる地域についてはより近い中学校を選択できる
- [デメリット]
- 学区外就学を柔軟に認めることにより、本埜小での人間関係が進学と同時に分かれてしまう
 - 学区外就学の場合、地区別活動時などにおける疎外感(児童・保護者ともに)
 - 学校と地域との繋がりが希薄化になる
 - 旧行政界を越えての統合に対する地域等の抵抗感

学校適正配置シミュレーション ④

隣接校である滝野中学校、小林中学校及び印旛中学校の中から学校を選択する。(指定校は滝野中学校)

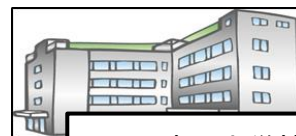
【イメージ図】

案4

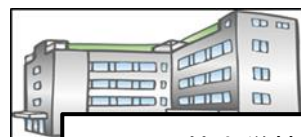


本埜中学校

学校選択制



滝野中学校



小林中学校



印旛中学校

[メリット]

※通学区域制度の弾力的な運用における制度の一つであり、基本的には、通学区域制度の弾力的な運用における学区外就学と同様

[デメリット]

○学校と地域との繋がりがより希薄化(複雑化)になる
○中学校区等を活動単位とした地域コミュニティ等への対応
・市主催の防災訓練への参加
・青少年相談員活動への参加
・有価物資源回収の範囲など

- ※義務教育学校(小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校)の設置については、現行の学校適正配置シミュレーションにおいて、「検討した結果、設置後も適正な学校規模を確保することができず、人間関係の固定化や部活動の選択肢に係る課題等が依然として残る」としており、現在も状況は変わっていないため、義務教育学校の設置は困難であると考えます。
- ※小規模特認校制度(小規模校において教育を受けさせたいと希望する生徒・保護者に、通学区域外からの入学を認める制度)の導入については、他市の事例を見る限り、課題解決に至るほどの生徒数の増加は見込めないことから、現時点で実施する考えはない。
- ※本埜地区から中学校がなくなった場合、いずれの中学校を選択しても通学距離が遠くなる地域が解消できない。